

# 車いすで広がる思い

北名古屋市立五条小学校五年

中島

凜

わたしのひいおばあちゃんは、今年で九十さいになりました。体は元気だけど、足が弱くなってきた、長いきよりを歩くことが大変そうです。それでもひいおばあちゃんは、

「まだ歩けるから大丈夫。」

と言って、なかなか車いすやつえを使おうとはしませんでした。

去年、家族で飛行機に乗って旅行に行くことになりました。空港はとも広くて、出発ゲートまではかなりのきよりがあります。ひいおばあちゃんは、

「大丈夫、歩けるよ。」

と言って、がんばって歩いていただけ、あとからつかれが出て、飛行機の中で体調をくずしてしまいました。目的地に着いて飛行機をおりたとき、空港の人が車いすを用意してくれました。はじめは、車いすに乗ることを遠りよしていましたが、無理をしないためにも車いすに乗ることになりました。はじめて車いすに乗ったひいおばあちゃんは、ちよつとはずかしそうでした。

「悪いねえ、ごめんね。」

と何度も言っていました。最初は少しはずかしそうだったひいおばあちゃんも、車いすに乗って移動するうちに、だんだん表情がやわらかくなつていきました。そのあとも、空港だけでなく、行った先でも車いすのかし出しがありました。そのおかげでひいおばあちゃんは楽に動くことが